

## 「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	会津若松市立第一中学校、会津若松市立城北小学校
推進協力校名	会津若松市立行仁小学校

### 児童生徒の生きる力の育成のために

若松第一中学校区の児童生徒一人一人の生きてはたらく「確かな学力」の育成のため、城北小学校と行仁小学校、若松第一中学校で連携・協力して「学びのスタンダード」推進事業に取り組んでまいりました。共通実践事項として、「学び合い、伝え合う」をテーマとして、児童生徒に「思考力・判断力・表現力」を育成し、ひいては「確かな学力」の育成を目指してまいりました。その結果をご報告いたします。

#### 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

##### (1) 城北小学校（パイロット校Ⅱ）の取組

- ① 「授業スタンダード」と本校の現職教育共同計画との関連ある項目の洗い出し
- ② 研究授業における活用
  - ア 「授業スタンダード」を持ち寄り、話合いのよりどころとして活用した。
  - イ 授業者は、チェックシートに本時の重点項目を示し、参観者は授業参観の視点にした。
- ③ 「授業スタンダード」の日常化
  - ア 週案に綴じて日々の授業づくりの参考にした。
  - イ チェックシートで授業を振り返ったり、定期的に自己評価したりした。

##### (2) 第一中学校（パイロット校Ⅰ）の取組

- ① 現職教育の充実
  - ア 「授業スタンダード」の「ペアやグループでの話合い」と「まとめ・振り返り」を重点化した授業を実践した。（右写真）
  - イ リーフレットにある「子どもの姿」が見られるよう指導を工夫した。
- ② チェックシートの実施
  - 学期1回、教員全員がチェックシートで自己評価し、教員の意識改革を図った。
- ③ 振り返りの実施



「ペアやグループでの話合い」の場面で伝え合う活動をしているところ  
(第一中学校)

リーフレットの「子どもの姿」にある振り返りの文言を教室に掲示し、生徒が授業の振り返りをそれに合わせてできるよう指導した。

## 2 パイロット校の取組内容

### (1) 城北小学校（パイロット校Ⅱ）

#### ① 学級担任制を基盤とした「教科担任制」

(例) 理科の指導体制

理科	1組	2組	3組
6年	A先生	A先生	A先生
5年	B先生	B先生	B先生
4年	A先生	A先生	A先生



「教え合い、学び合い」をしているところ（城北小学校）

### (2) 第一中学校（パイロット校Ⅰ）

#### ① 「タテ持ち」

ア 教科部会の推進・・・公開授業の指導案検討、授業の内容についての検討（進度や授業内容の確認）、テスト作成の話合い（問題の精選）

イ 互見授業の実施・・・校長、教頭、研修主任、教科の教員、教科外の教員による授業参観と研究会への参加

(例) 理科の指導体制

理 科	1組	2組	3組	4組	5組	6組
3年	A先生	A先生	A先生	B先生	B先生	
2年	推進教師	加配教師	加配教師	推進教師	推進教師	
1年	加配教師	B先生	B先生	加配教師	A先生	加配教師

## 3 推進協力校の取組内容

### (1) パイロット校との連携

#### ① パイロット校との協力による授業実践

ア 年間3回・・・第一中学校、城北小学校の教員も参加しての授業研究会（右写真）

イ パイロット校の授業参観

#### ② 三校共通実践事項『話し方・聴き方』レベル1～3』の校内での取組

### (2) 協力校としての取組

#### ① 「授業スタンダード」を生かした授業実践

ア 低・中・高学年ブロックでの指導案検討

イ 一人2授業による授業力の向上及び児童の変容確認

#### ② 「授業スタンダード」チェックシートの自校化による授業の充実・改善



パイロット校の教員と一緒にKJ法による研究協議会

## 4 成果と次年度に向けて

### (1) 成果について

#### ① 城北小学校（パイロット校Ⅱ）

- ・ 本校の現職教育の内容と「授業スタンダード」の内容に重なる部分が多く、自信をもって取り組むことができた。

- ・ 現職教育共同計画に「授業スタンダード」の関連項目等を明示したことで、全教員が同じ方向で研究推進することができた。特に、「ペア学習やグループ学習の取り入れ方」、「学級全体での話合いのコーディネートの仕方」について、共通理解が図られ、思考力・表現力を高める発問や、見取りを活かした話合い活動がよりできるようになった。
- ・ チェックシートで重点事項を示したことで、研究授業共通の重点と個人の重点を意識して、授業づくりを行うことができた。
- ・ 学級担任制を基盤とした「教科担任制」を行うことで、児童一人一人を多面的に見ることができた。また、教材研究を深く行うことができ、授業の質的改善につながった。

#### ② 第一中学校（パイロット校Ⅰ）

- ・ 「タテ持ち」については、教員同士が授業の進捗について確認したり、定期テストの問題の検討・改良を行ったりすることができた。
- ・ 「授業スタンダード」の活用については、単元構成を考え、単元を通して育てたい力を明確にすることができた。「ペアやグループでの話合い」を重点項目として、現職教育を推進し、思考力・表現力の育成ができるようになった。「まとめ・振り返り」も重点項目とし、学習内容の確実な定着や生徒の学ぶ意欲の向上が図られた。

#### ③ 小・中学校共通

- ・ 小・中学校の代表者による秋田県横手市への研修視察を通して、共通実践を図った。
- ・ 「話し方・聴き方」の掲示を使って学習訓練を行い、伝え合う活動を充実させ、思考力や表現力を育成している。今後の継続的な指導で、さらに良くなっていくと思われる。

### (2) 次年度に向けて

#### ① 城北小学校（パイロット校Ⅱ）

- ・ 「授業スタンダード」について、教科の特質に応じた使い方を検討していく。
- ・ 指導事項のポイントを絞った取り組み方を検討していく。
- ・ 児童同士の話合い活動のさせ方を工夫していく。

#### ② 第一中学校（パイロット校Ⅰ）

- ・ 「タテ持ち」について、さらに教員同士が話合いを進めていく時間や場の設定を工夫していく。
- ・ 「授業スタンダード」をさらに熟読し、教員自身が自分のものとし、十分に使いこなせるようにしていきたい。
- ・ 推進教師が各教室に入り、授業やその他の学級での活動を見て、全ての教員に適切に助言・指導できる雰囲気や環境作りをしていくことが望まれる。

#### ③ 小・中学校共通

- ・ 「小・中連携の具体的共通実践の充実」について、9年間を見通した継続的な「話し方・聴き方」の指導を継続していく。
- ・ 9年間の段階に応じた「家庭学習スタンダード」の活用を充実させていく。

# 研修便り

No. 4

H.29.10.15

先日は、夏休み明けすぐにもかかわらず、お二人の先生に研究授業を実践していただき、本当にありがとうございました。見取りと支援で促した「主体的・対話的で深い学び」からの話し合い活動、「グループでの話し合い」による広がり深まる思考など、「授業スタンダード」を積極的に活用していただきました。

さて、いよいよ今学期には「推進地域授業研究会」が行われます。公開授業はもとより、日々の授業で「授業スタンダード」の活用を図り、本事業が今年度目指している教師像「全ての教師が授業の基礎・基本を習得」を達成し、子どもたちの学力がより向上していくことができたらと思います。

そこで、下記の内容を共通理解事項とし、進めていきたいと思っておりますのでご確認ください。

## 〈共通理解事項〉

### (1) 現職教育の中での「授業スタンダード」の活用について

- ① 「言語スキルを育てる授業の進め方」「国語科研究計画」「算数科研究計画」を週案に綴じて活用する。
- ② 事前研究会や事後研究会の際、「授業スタンダード」を持ち寄り、話し合いのよりどころとする。
- ③ チェックシートで授業を振り返る。
  - 日々の授業で。
  - 研究授業で。
    - ・ 授業者は、指導の重点事項が分かるように、番号の所に丸印を3つ程度付けて、座席表の裏面に印刷する。その際、本校の研究テーマに関連のある内容（No.7, No.8）以外からも必ず一つは入れるようにする。

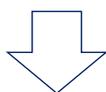
### (2) 推進教師の活用について

- ① 第5学年の算数科にT・T指導で入るが、推進地域研究授業研究会以降は、担任の先生方と相談し、単元によりT1で指導を行う。
- ② 第5学年以外の学級で、T・T指導が効果的と思われる授業に入る。
- ③ 定着確認シートや学力テストを分析し、担任へ情報提供する。

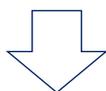
なお、9月26日の要請訪問、10月12日の講演会の内容、11月2日の地域研究会の日程につきましては、職員会議でお知らせいたします。

<秋田県先進校視察報告及び学びたい点>

- 小・中の連携がしっかりしていたので、学校間格差や中1ギャップが少ない。
- 市全体での指導体制が確立され、教師間の格差が少ない。
- 基本的授業の流し方と学ばせ方の定着と、授業へ向かう教師の意識の高さ。
- 市として、指導官と支援員の人材が多く、1クラスに担任以外の複数人での指導や補助が日常的に可能。



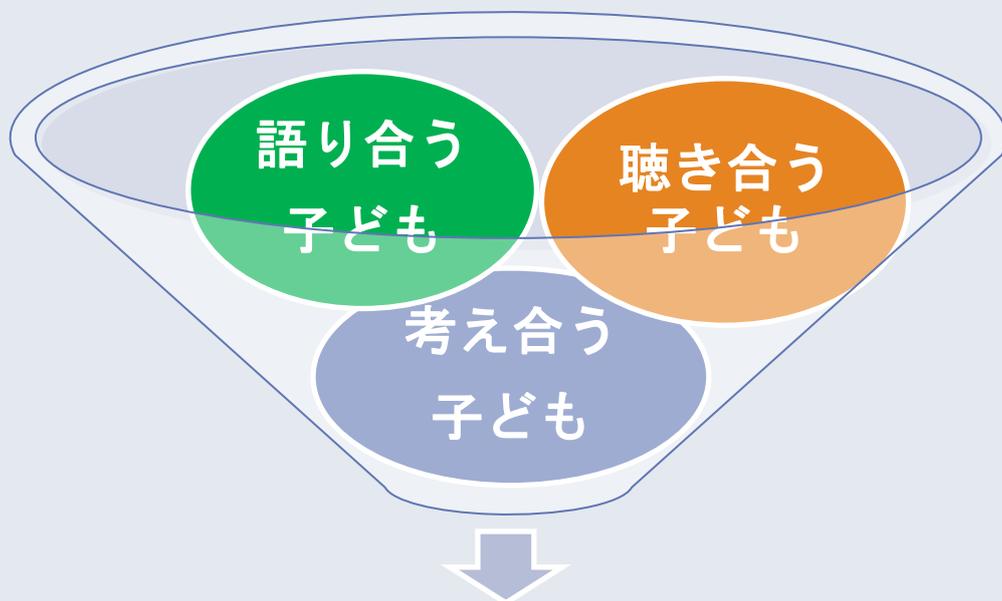
どの学校にいても同じ学習スタイルで学べる。  
小学校から「話し方」「学び方」を学習しているので、  
ペアやグループでの学び合いができる。



<一中・城北・行仁学校区として>  
少しでも学校間格差をなくし、中学校に行ったときに、学び合いをしていけるようにするためには、教師の意識向上及び学習に向かう児童・生徒の「聴き方・話し方」を共通理解のもと学習訓練をしていく必要があるのではないか。

聴き合い・語り合い・考え合う授業をめざして

～「あい」のある授業づくり～



学び合いの生まれる学級づくり

## 授業の仕掛け・授業の構想

- 聴き合いたいと思う授業づくり・・・学習環境・学習形態・学習訓練の工夫
- 語り（話し）合いたいと思わせる授業づくり・・・授業の導入・教材・課題の工夫
- 考え合いたいと思う授業づくり・・・話し合いのコーディネート工夫

伝え合い・学び合いへと高める